

経営比較分析表

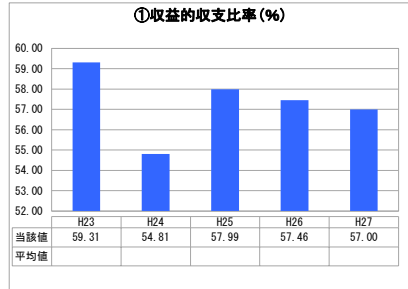
秋田県 北秋田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	18.47	100.00	2,915

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,129	1,152.76	29.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,264	4.02	1,558.21

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



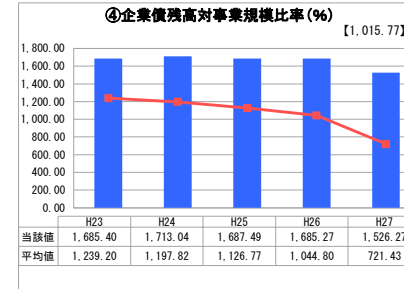
「単年度の収支」



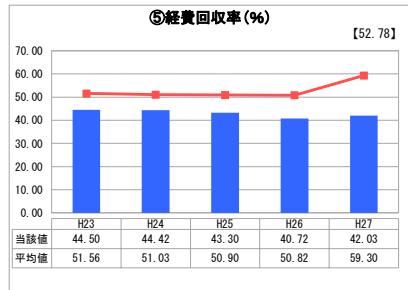
「累積欠損」



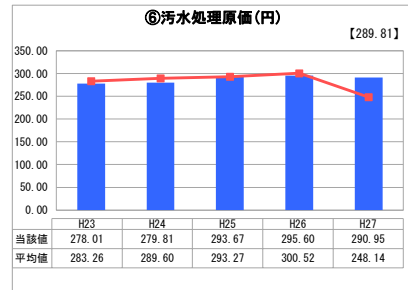
「支払能力」



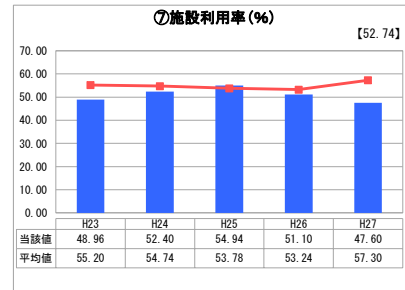
「債務残高」



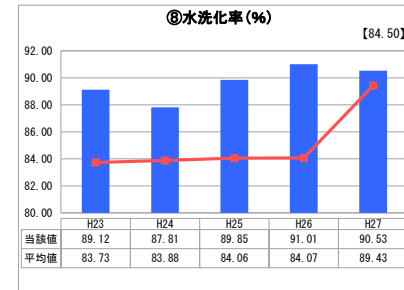
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

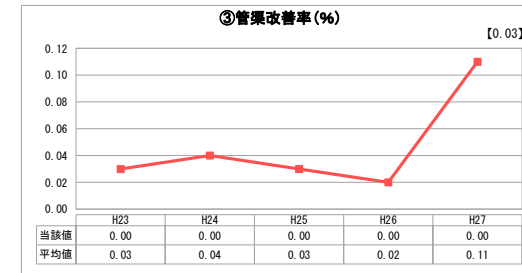
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

①本来100以上になっているのが望ましいが、維持管理費に対して料金収入が低いこと、起債償還額が大きいため57という低い数値になっている。H24が極端に低いのはこの年に繰上償還をしていることが原因である。

④農業集落排水整備事業は完了しているが、資本費平準化債の借入があるため、起債償還額は減らず料金収入は人口減少とともに減っている。類似団体と比べて2倍ほど高い数値になっている。

⑤本来100以上になっている必要があるが、維持管理費と起債償還額の合計に対し、料金収入が低いため42.03という低い数値になっている。

⑥汚水1m³を処理する費用であるが、処理費が年々増える傾向にあり、人口減少とともに有収水量は減っている。27年度の全国平均と同程度であるが類似団体と比較すると高いため、より一層のコスト削減を図める。

⑦全国平均、類似団体と比較しても低く、今後も人口減少により下がることが予想されるため、施設統廃合を計画している。

⑧整備事業は完了しているため、今後も大きな変動はないと見込まれる。

2. 老朽化の状況について

供用開始から30年近く経過してしており、排水管路については、今後耐用年数を考慮し更新していく。

また、老朽化に伴う修繕費や維持管理費が増加することから、北秋田市生活排水処理整備構想に基づき処理施設及び公共下水道への統廃合を計画している。

全体総括

各指数を類似団体と比較して乖離しているものもあり、今後改善に向けた取組が必要と考える。農業集落排水整備事業は完了し、老朽化に伴う修繕費や維持管理費が増加することから、処理施設及び公共下水道への統廃合を計画している。収益については、一般会計からの繰入金に依存度が高いため、料金収入の拡大を図るとともに、より一層の収入率の向上を図る。また、今後料金水準を見直し、料金単価の改定を行い適正な農業集落排水使用料となるよう努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。